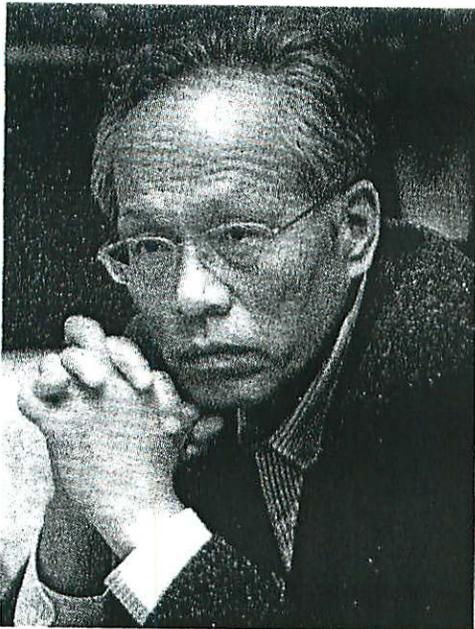


# 佐高信の

# 思郷通信

38



滋賀県知事選挙で、現共産党は別の候補を立てたので、嘉田さん支持したのは社民だけだった。新たに新幹線の駅をつくるのは「もったいない」という主張と、ダム凍結に社民だけが賛成したからである。それで、嘉田さんの当選は「奇跡」といわれ、自民、公明、

滋賀県知事選挙で、現共産党は別の候補を立てたので、嘉田さん支持したのは社民だけだった。新たに新幹線の駅をつくるのは「もったいない」という主張と、ダム凍結に社民だけが賛成したからである。それで、嘉田さんの当選は「奇跡」といわれ、自民、公明、

私に嘉田さんと、彼女が初当選してまもなく、『週刊金曜日』の2000年7月28日号で対談した。この時の選挙では、政党としては自民、公明、民主が現職の候補を推し、

## 歴史の進歩に逆行する吉村美栄子知事

そして民主に「滋賀ショック」を与えることにな

る。私の対談の最後に、嘉田さんはこう言った。

「私がなぜダムに反対かというところ、自然の流れを断ってしまうのと、ダムも計画規模を越えようとあふれるからです。その上、ダムでは多くの場合、地域社会が再生できない。」

人がいなくなってしまうたら過疎になる。再生するためには30年、50年と地域に治水の仕事が必要です。同時に水害に対応できるような水防組織をつくる。若い人には消防団に入ってもらい、できれば家族をつくってもらい、いま造林公社の労働者を遠方から呼んでいますが、山の中に仕事を創り出すのなら、そこで暮

らす人に仕事をしてもらい、社会を存続するといふ発想にしなければ。

佐高さんがおっしゃるように近代文明の問題の縮図がここにあります。私はそれを乗り越え、人と自然が共に生きていくモデルをここにつくりたいと思っています。8年前の嘉田さんの提言は少しも占めていない。むしろ、その有効性は強

まっている。山形県知事の吉村美栄子さんは嘉田さんと共に「卒原発」の旗を高く掲げたはずだった。その吉村さんが最上小国川のダム建設を遮二無二進めようとするのは、まったく筋が通らない。「卒原発」だが、「卒ダム」ではないというのは、「卒原発」を言いな

るような矛盾したことである。

「ダムの時代」は原発以上に完全に終わったのであり、熊本の川辺川ダムのように、建設したのをいま壊している例もある。なぜ、ダムによらない治水の方法があるという専門家の声に耳を傾けないのか。一度失った自然は戻らない。ダム建設で一時的

に建設業者や土木業者は潤うかもしれない。しかし、それは安物買いの銭失いにも似た行為である。今年の2月10日に自殺した小国川漁協組合長、沼沢勝善さんの口癖は、「元気な魚たちが泳ぐ自然のままの川、全国各地から釣り人が来てくれる活気溢れる川を孫子の代まで残したい」だった。

利権には目もくれず、孫子のことだけ考えている沼沢さんの柔和な笑顔が忘れられない。その沼沢さんに県は、「小国川ダム賛成にまわらなければ漁業権を更新しない」という前代未聞の脅しをかけ、自殺に追い込んだ。漁業権を認めないなどというやり方は全国的にも稀であり、こんなことをやった山形県を私は出身者としてとても恥ずかしく思う。

これまでも私は、たとえばミュージシャンの小室等さんなどを誘って、現地で反対の声をあげてきた。今度は社民党の福島みずほさんや前記の嘉田さんに声をかけようかと思っている。  
(評論家、酒田市出身)

佐高信さんの「思郷通信」は、毎月第4金曜日付に掲載します。